

# 第17回大会

日時・48年8月22日

コース・霞ヶ関CC・東コース  
(6,934ヤード・パー72)

## ●男子の部●

① 倉本 昌弘 (崇徳高)	75	73	148
② R・バラナバ (ハワイ)	75	75	150
② W・トム (ハワイ)	75	75	150
② 内藤 正幸 (玉川学園高)	77	73	150
⑤ 白浜 郁夫 (富岡中)	76	75	151
⑤ T・ランドルフ (大和高)	72	79	151
⑦ 野村 典孝 (茅ヶ崎高)	78	75	153
⑧ 金谷多一郎 (城南中)	74	80	154
⑨ 中村 勇 (千葉日大高一)	78	77	155
⑨ 高橋 成司 (北海高)	77	78	155

## ●女子の部●

① 石井 千枝 (伊東商高)	47	46	93
② 宮本佳代子 (青山学院高)	50	50	100
③ 小田 美岐 (八条中)	52	50	102
③ 東 智子 (青山学院高)	50	52	102

第15回大会に次いで2回目のハワイからの招待選手を加えての大会だったが、実力No.1の倉本選手(現プロ)が、ハワイNo.1のR・バラナバを破り優勝、念願の文部大臣杯を手にした。

当時から「ダイナマイト・クラ」とその豪快なドライブショットは関係者を驚かせた。

# 第18回大会

日時・49年8月2日

コース・霞ヶ関CC・東コース  
(6,934ヤード・パー72)

## ●男子の部●

① 湯原 信光 (日大桜丘高)	76	67	143
② 玉田 貢三 (京都商工高)	74	76	150
③ 堺和 哲 (岡山工高)	74	79	153
④ 土山 一 (海星高)	73	81	154
④ 秋山 義文 (暁星高)	78	76	154
⑥ 白浜 郁夫 (日大桜丘高)	75	80	155
⑥ 金谷多一郎 (城南中)	76	79	155
⑧ 室野 歩 (伊東商高)	79	78	157
⑨ 田辺アイク (クバサキ高)	82	76	158
⑩ ランソンプルース (調布高)	81	79	160
⑩ 福岡 秀康 (日大三高)	80	80	160

## ●女子の部●

① 村瀬摩利子 (金城学院高)	43	48	91
② 山田 美佐 (左近山中)	48	45	93
③ 小田 美岐 (八条中)	47	47	94

大会史上初のアンダーパーで優勝が決まった。湯原信光選手(現プロ)が36ホール1アンダーしかも後半18ホールが67ストロークのアマ・コース・レコードと、ジュニアの大会としては特筆すべき技術の向上が見られた。長打が魅力の好選手だ。

# 第19回大会

日時・昭和50年8月13日

コース・霞ヶ関CC・東コース  
(6,934ヤード・パー72)

## ●男子の部●

① 湯原 信光 (日大桜丘高)	76	68	144
② 白浜 郁夫 (日大桜丘高)	72	76	148
※③ 金谷多一郎 (川越高)	74	75	149
④ 羽川 豊 (足利工大付見丘高)	77	76	153
④ 中村 好広 (南山高)	79	74	153
⑥ 西川 達彦 (日大桜丘高)	77	77	154
⑥ 福居 清信 (明星高)	76	78	154
⑧ 寺元 明男 (箕面学園高)	79	76	155
⑨ J・イシイ (ハワイ)	78	78	156
※⑩ 植山鉄次郎 (慶応高)	79	78	157

## ●女子の部●

① 加納由美子 (薫英高)	41	39	80
② 小田 美岐 (平安女学院高)	42	39	81
③ 小川 洋子 (伊東商高)	46	43	89

湯原選手が2年連続優勝を飾った。ハワイからの招待選手も加えて開催されたが、36ホール・オープン・パーで収め絶対的な強さを見せた。又、女子では豪快なショットの加納選手(現プロ)が優勝した。この年より米国サイディエゴ市で開催されている「世界ジュニア選手権」へ2名派遣することになった。